

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

ELIC

2016年4月10日

No 340

1部100円

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会

東芝・日立は、リストラをやめよ！

3月27日（日）午後、川崎市教育文化会館において「電機大リストラに反撃する学習決起集会」が開かれ、全労連、東京地評、神奈川労連、大分県労連などの労働組合、電機・情報ユニオンなど電機関係の組織、日本共産党の国会、地方議会など関係者、その他含め19団体から91名が参加しました。この「決起集会」は、谷口利男電機・情報ユニオン副委員長が司会。中村由紀子同副委員長の開会あいさつで進められました。

「東芝粉飾決算と労働運動」と題して、大木一訓日本福祉大名誉教授・労働総研顧問が1時間にわたり講演。当初発表のリストラ人員1万人が際限なく増えている。粉飾自体が無法なことで、さらに何の責任もない社員に犠牲を押し付けることは人権無視の悪行である。今後注目すべき点は①米司法当局が調査を始めた、WH（ワシントン・ハル）社の「のれん代」の減損問題が明らかになると粉飾額がさらに拡大し、企業としての存立危機を招きかねない②自民党政権中枢と癒着し、原発事業に前のめりになったあげく、今回の粉飾決算と経営危機を招いたことを全く反省せず、さらに原発事業にしがみつくなのは世界の動きに逆行する自滅への道③このような「東芝の悲劇」を繰り返さないために、会社いいなりの労働運動から労働者の側にたつ労働運動の再生が必要、と講演を結びました。

全労連の井上久事務局長は、「東芝、日立という日本を代表する大企業の無法なリストラに対し電機のみなさんが闘っていることに敬意を表するとともに、全労連もおおいに支援をしたい」と連帯挨拶。東京地評の森田稔議長、神奈川労連の山田浩文副議長、大分県からかけつけた山本茂県労連議長からそれぞれ熱い連帯挨拶が述べられました。

日本共産党はたの君枝衆議院議員は「私は日立のリストラで、東芝問題では真島議員や小池議員が追求」と挨拶。同じく河野ゆりえ都議、君嶋千佳子神奈川県



議からもリストラ追及の決意が述べられました。

電機・情報ユニオン米田徳治委員長から「電機リストラは28万人を超えてまだまだ続く。赤字であろうがお構いなし、政権の後押しを受けてやっている。それとの闘いであるからまさに総がかりで取り組んでいく必要がある。国が制定した労働契約承継法や雇用対策法、企業が自ら認証した国連グローバルコンパクトやISO26000など、法や基準を適正に履行させることが重要。電機・情報ユニオンに多くの闘う労働者を組織して反撃する」と決意を込めた基調報告がありました。

日立戸塚工場、富士通関連、東芝明るくする会からの発言の後、電機・情報ユニオン森英一書記長が閉会挨拶、ガンバロー三唱で締めくくりました。

今月号の紙面

- ①電機の大リストラ反撃決起集会
- ②電機懇「16春闘を振り返って」
- ③16春闘「金属労働者集会」参加
シャープをホンハイが買収
- ④3・11省庁交渉を実施
- ⑤日立戸塚・HGST閉鎖と闘う
- ⑥ラプラス「北岳の魅力」笹野さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧第87回メーデーに参加しよう
からむす原稿募集。集積回路